

小貝川の大洪水!

堤防決壊現場を訪ねる

小貝川堤防決壊現場と母子島遊水地



小貝川の洪水時の状況



母子島遊水地（はこじまゆうすいち）

昭和 61 年（1986 年）8 月の小貝川大洪水から 26 年。150 年に一度の大洪水といわれ、その被害は、旧下館市の面積の 4 分の 1 を冠水させ、下流の旧明野町でも谷原、大林地区など小貝川沿いの地域を泥水の海に変えました。かつて経験したことのない大きな被害に自然の猛威を思い知らされました。観測史上最悪の被害を受けた小貝川は、昭和 61 年 9 月、建設省（現 国土交通省）の直轄河川激甚災害対策特別緊急事業の採択を受け、小貝川中流部約 10 km の堤防補強、小貝川大橋の架け替え工事、そして母子島遊水地の建設が行われ、総事業費 208 億円、工期が 5 か年という大規模かつ緊急の事業でした。今回は、堤防決壊現場と母子島遊水地を訪ね、当時の被害状況と復興のあゆみ振り返ります。

下記のとおり実施しますので多くの皆様のご参加をお待ちしております

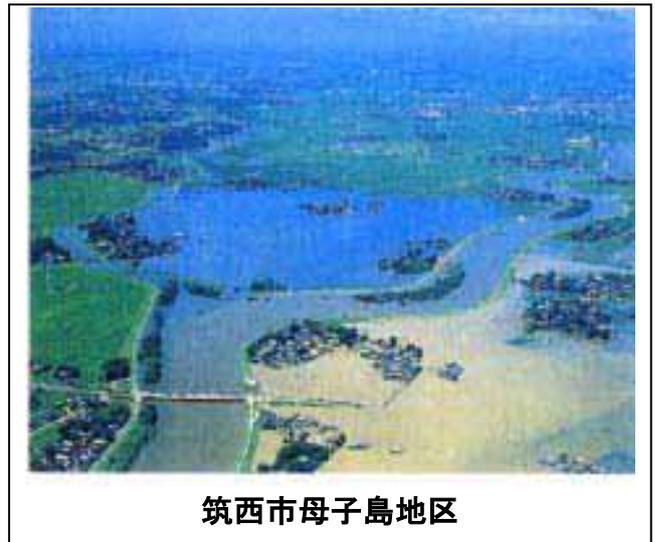
日 時 11 月 17 日（土） 8：00 集合
集合場所 JR 新小岩駅 東北広場（裏面地図参照）
参加費 1,000 円（資料、交通費、保険料の一部として）
募集人数 45 名（先着順） boumati_jyuku@yahoo.co.jp 携帯 080-4006-8819

行 程 8：00 出発（集合次第出発します）
10：00 藤代河川防災ステーション
10：30 3.11 被災・復旧箇所見学
12：00 昼食（各自持参してください）
13：00 昭和 61 年堤防決壊箇所 見学
14：00 母子島遊水地 見学
15：00 道の駅しもつま 新鮮野菜購入
17：30 JR 新小岩駅 東北広場 到着（道路状況により流動的です。）

小貝川大水害

(昭和 61 年 8 月 4 日『台風 10 号』)

7 月 31 日、フィリピン東海上で発生した台風 10 号は 980hpa という大きな勢力を保ったまま関東に上陸、8 月 4 日、筑西市を直撃しました。昼頃から降り始めた雨は、わずか 24 時間で 300mm を超える雨量を記録しました。雨量レーダーによれば、小貝川流域の上空の雨雲が約 6 時間にわたってほとんど動かなかったという記録が残されています。この大雨によって、小貝川の水位はみるみる上昇し、計画水位をほぼ全川にわたって超え、濁流となり、辺りを泥の海へと変えていきました。



はこじまゆうすいち 母子島遊水地

昭和 61 年 8 月の洪水で冠水した母子島、飯田、一丁田、椿宮、小釜の 5 集落には新たに盛土した造成地に移転していただき、その跡地を含む約 160ha を堤防で囲み、遊水地を建設しました。母子島遊水地は通常は農地として利用できますが、小貝川が増水したときは、その水を遊水地に導き入れて溜め込み、洪水の危険が去った時点で小貝川に戻すことで、下流部への水量を減らし、小貝川全体の安全性を高めます。母子島遊水地には、洪水時に約 500 万 m^3 の水を溜めることができます。



新小岩駅東北広場案内図



集合場所

JR新小岩駅北口から北口連絡通路を渡って、ロータリー広場にお集まりください。

